

高齢透析患者の現状と課題

なぜ、医師が、
ケアマネジャーの資格を
とったのか

COI 開示

演題発表内容に関連し、発表者に
開示すべきCOI関係にある企業などは
ありません

今、日本の大きな問題

高齢化社会

高齢者の医療が拡大している

高齢者医療

透析医療

高齢者医療

透析医療

高齢者医療とは、
为什么呢か

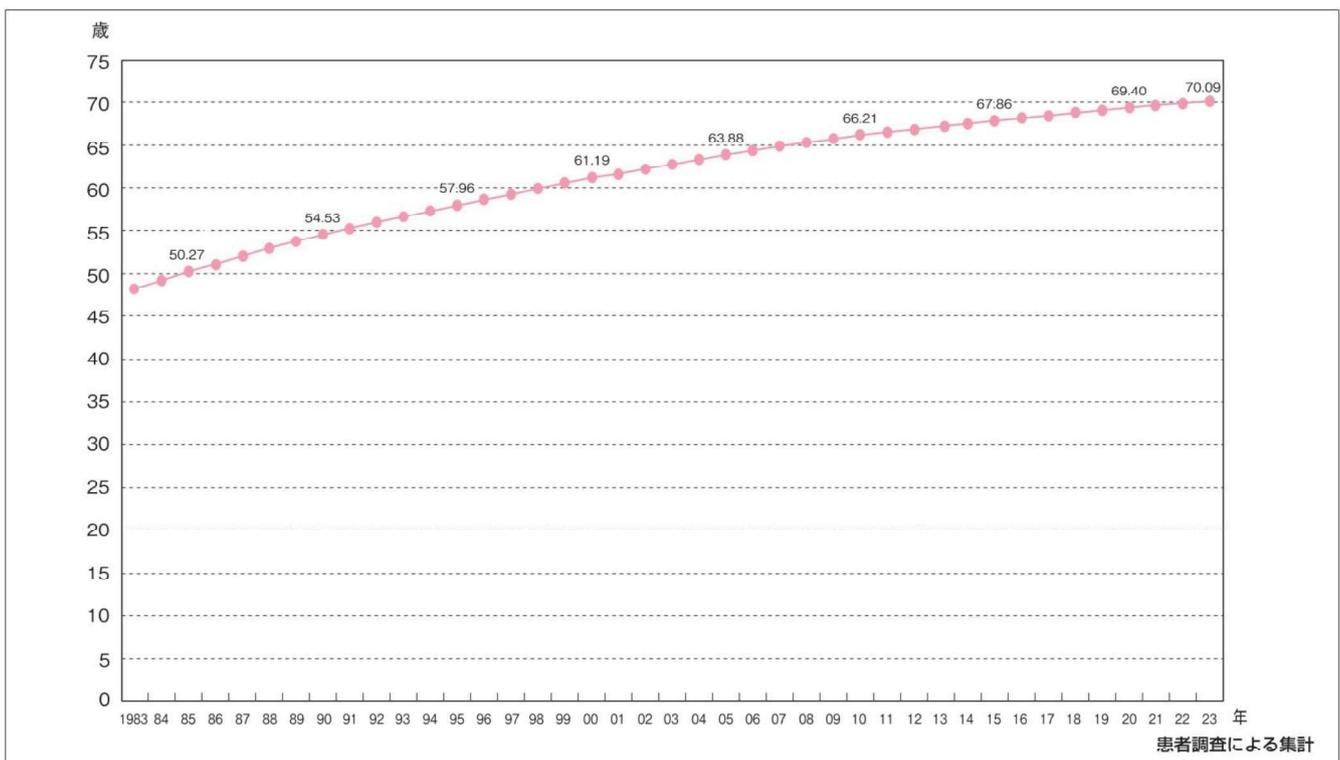
高齢者が持つ疾患に対して
治療を行うこと



高齢者医療

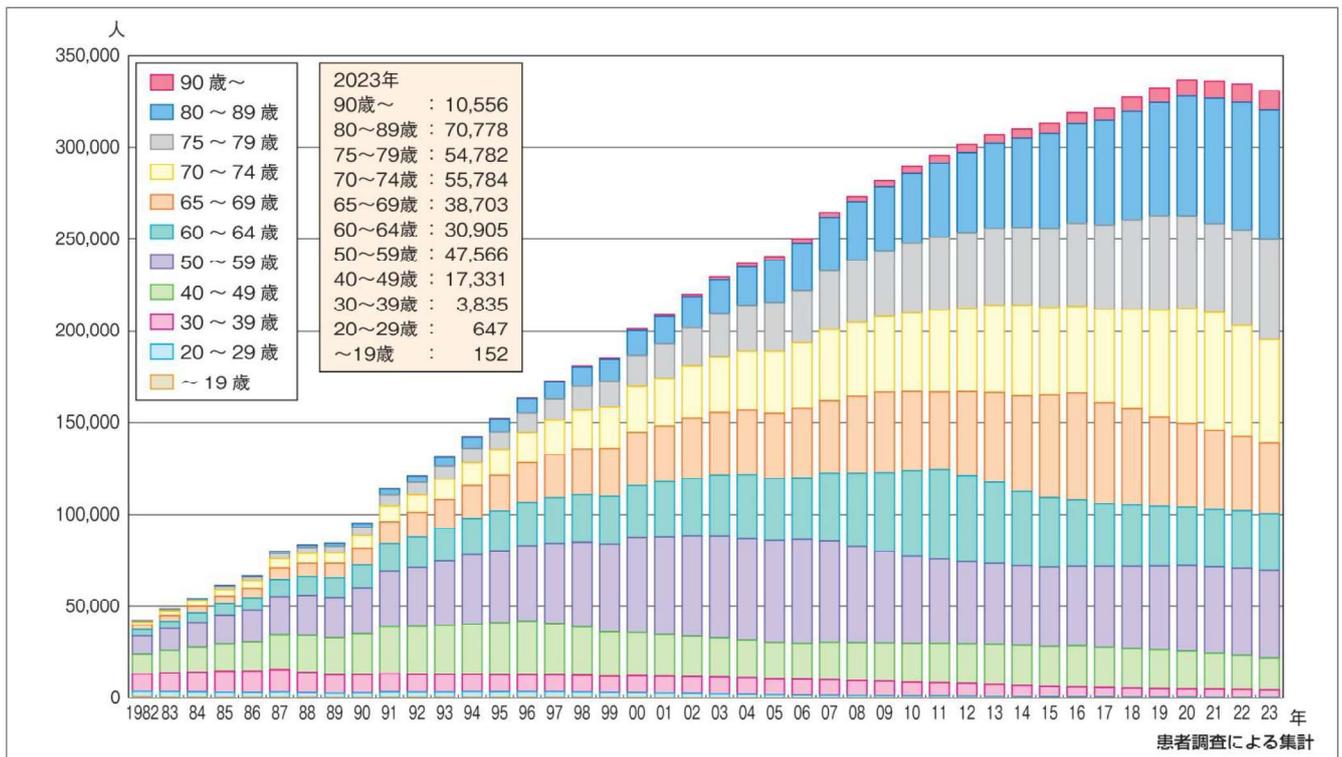
かかりつけ医を中心として
高齢者が健やかに、生活が
できるよう医療、介護から
支える医療

(5) 慢性透析患者 平均年齢の推移, 1983-2023年 (図5)



一般社団法人日本透析医学会「わが国の慢性透析療法の現況 (2023年12月31日現在)」

(6) 慢性透析患者 年齢分布の推移, 1982-2023年 (図6)



一般社団法人日本透析医学会「わが国の慢性透析療法の現況 (2023年12月31日現在)」

透析医療は、比較的若い人を
対象とした医療であった。
老人は少なかった

そのため、一般の透析施設では
老人医療の経験が少ない
その背景の中、老人が増えている

家族形態の変化

老老介護世帯、独居老人が急速に増加

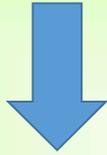
老老介護世帯、独居老人の透析症例が急速に増えている

この状況に、透析施設は対応しなくてはならない

今までは、透析施設の医療は、透析室だけで完結していた

ところが、老人医療が加わったため、その患者さんの生活、食事、介護、リハビリなど、今まで関与していなかった介護分野に係わる必要がでてきた

医療従事者は、医療の知識はあっても
介護分野の知識は、ほぼゼロ



ケアマネジャー、ソーシャルワーカーなどに
任せて対応してもらおう
丸投げ状態

ケアマネジャー

訪問看護師の派遣

リハビリテーションをするか
どこで、するか？ 通所か在宅か

訪問看護師の派遣

何をしてほしいか？

血圧などの測定をしてほしいのか

薬の自己管理ができないので、
サポートしてほしいのか

ケアマネジャーに丸投げでいいの



患者さんの困っていること、
体の状態を一番知っているのは
主治医である自分

なのに、その人のプランに
自分が関与しないと、ベストな
ケアプランにならないのではないか？



よし！
介護分野の勉強をしよう

でも、どうやって勉強したらいいか
分からない

その時、たまたま見たユーキャンの
パンフレットに、ケアマネジャー講座があった

このようにして、ユーキャンでの勉強が
始まりました

ケアマネジャー(介護支援専門員)の資格は

- 1 試験 : 合格率 10 ~ 20%
- 2 月2回 5カ月に及ぶ 研修

元々、資格を得るための勉強では
なかったのに、これらを知らなかった
クリニックと相談し、研修にも参加

何とか、試験に合格し、
5カ月間の研修も終了しました。
そして、神奈川県介護支援専門員に
登録しました。
(私の受けた試験の合格率 17%)

第 13D4203 号

修了証明書

氏名 巽 洋
生年月日 昭和38年7月10日

あなたは、介護保険法（平成9年
法律第123号。）第69条の2に規定
する介護支援専門員実務研修を
修了したことを証します。

平成26年6月6日

社会福祉法人
神奈川県社会福祉協議会
会長 篠原 正治

〒195-0053
東京都町田市能ヶ谷6丁目33-24

巽 洋 様

介護支援専門員登録通知

氏名	巽 洋
生年月日	1963年7月10日
住所	東京都町田市能ヶ谷6丁目33-24
登録番号	14140631
登録年月日	2014年6月6日

上記のとおり介護支援専門員資格登録簿に登録されたことを証明する。

平成26年6月13日

神奈川県保健福祉局福祉部地域福祉課長



(備考)

- この登録通知は、介護支援専門員の資格を証明するものではありません。
- 介護支援専門員の業務に就かれる方は、介護支援専門員証の交付申請が必要となります。
- この登録通知に記載されている氏名・住所に変更が生じた場合には、届出が必要となります。

問い合わせ先
地域福祉グループ
電話 045-210-4755 (直通)
FAX 045-210-8857

これからの高齢者透析医療



これからの高齢者透析医療



高齢者を透析クリニック単独で支えるのは
無理

これからの高齢者透析医療



これからの高齢者透析医療



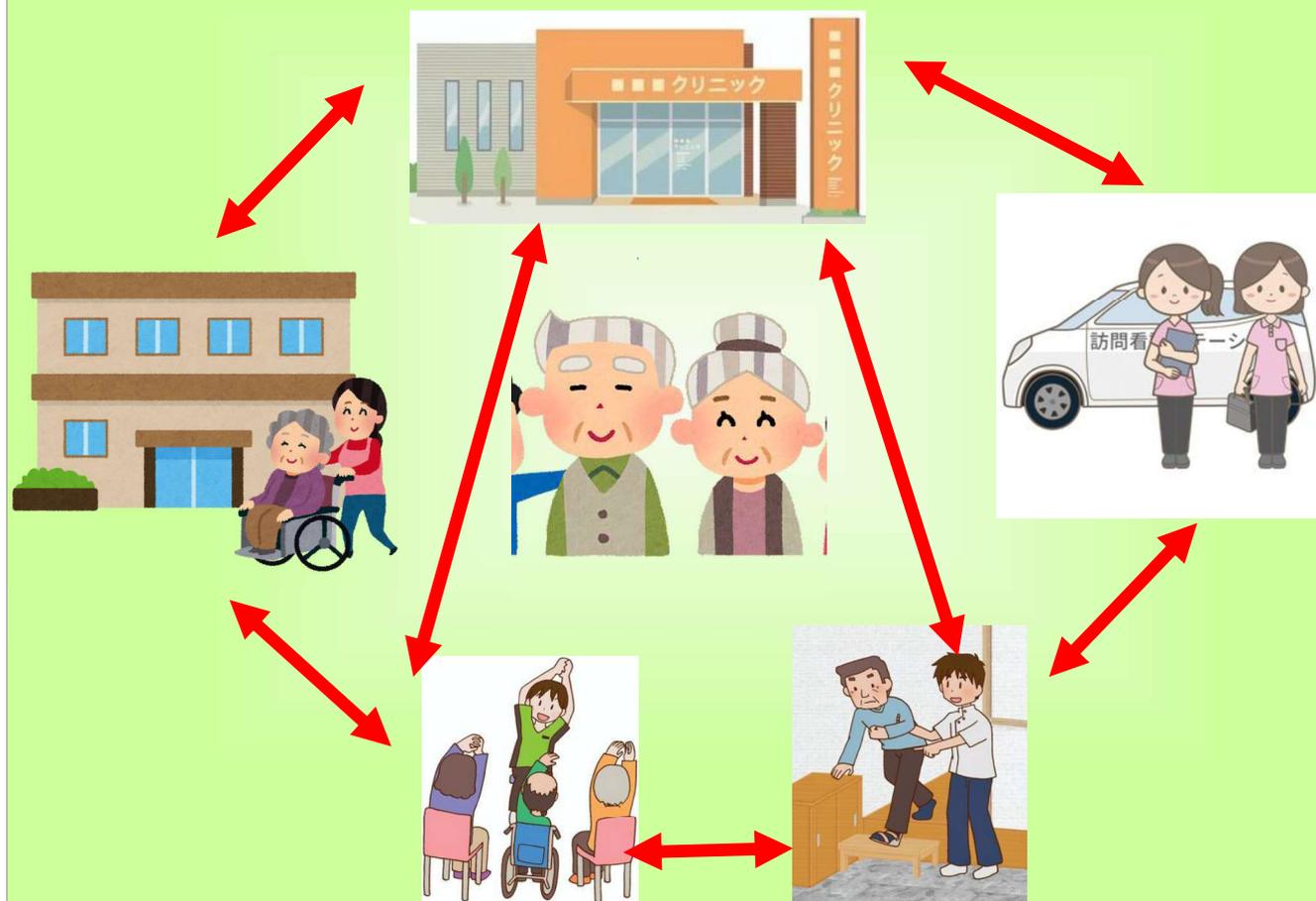
これからの高齢者透析医療



これからの高齢者透析医療



これからの高齢者透析医療



これからは、透析施設で
高齢者透析を支えるのではなく
地域で支えていくという発想が
大切

透析患者さんの現状

今の現状を高齢の透析患者さんはどのように考えているのでしょうか

2021年度
血液透析患者実態調査報告書

公益社団法人日本透析医会
「血液透析患者実態調査検討ワーキンググループ」

2021年度
血液透析患者実態調査報告書

公益社団法人日本透析医会
「血液透析患者実態調査検討ワーキンググループ」

表IV-4 単独世帯の割合¹⁾

単位：%

調査年	単独世帯	単独世帯以外	無回答・不明	合計
2021年	20.3	75.4	4.2	100.0
	21.2	78.8	—	100.0
2016年	17.2	75.2	7.6	100.0
	18.6	81.4	—	100.0
2011年	10.7	87.7	1.6	100.0
	10.9	89.1	—	100.0
2006年	9.6	89.5	0.9	100.0
	9.7	90.2	—	100.0
2001年	7.9	89.9	2.2	100.0
	8.1	91.9	—	100.0

1) 上段は、無回答・不明を加えた割合、下段は無回答・不明を除いた割合を示している。

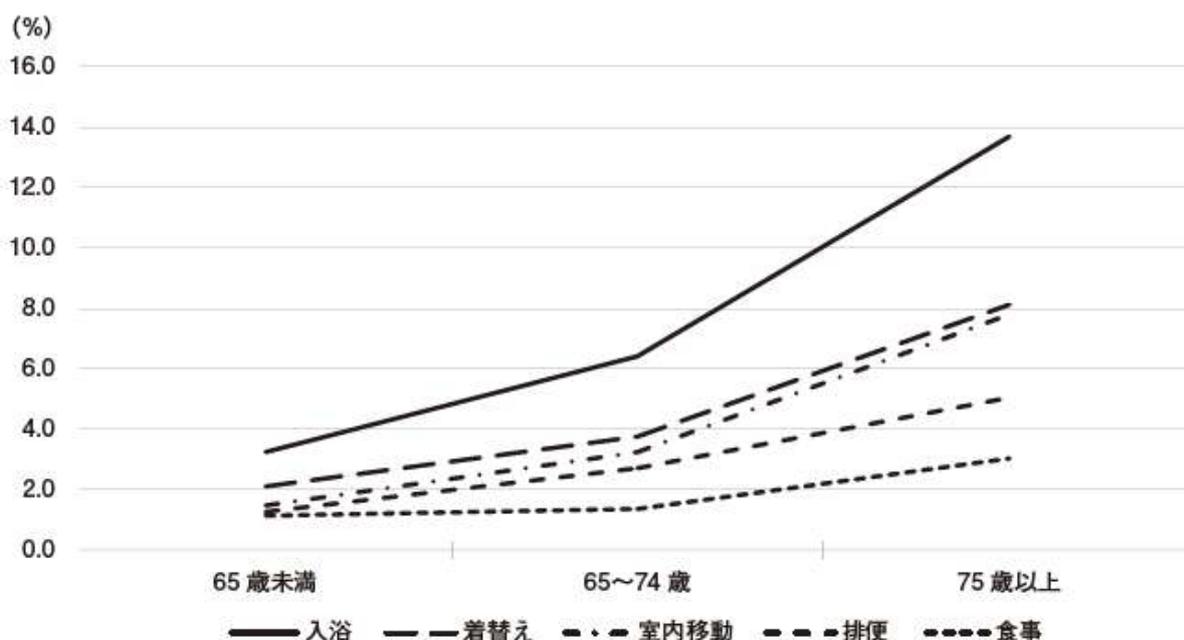
表Ⅳ-4 単独世帯の割合¹⁾

単位：%

調査年	単独世帯	単独世帯以外	無回答・不明	合計
2021 年	20.3	75.4	4.2	100.0
	21.2	78.8	—	100.0
2016 年	17.2	75.2	7.6	100.0
	18.6	81.4	—	100.0
2011 年	10.7	87.7	1.6	100.0
	10.9	89.1	—	100.0
2006 年	9.6	89.5	0.9	100.0
	9.7	90.2	—	100.0
2001 年	7.9	89.9	2.2	100.0
	8.1	91.9	—	100.0

1) 上段は、無回答・不明を加えた割合、下段は無回答・不明を除いた割合を示している。

手助けが必要な人の割合



注) 手助けが必要とは「非常に難しいので時々手助けが必要」あるいは「全くできないのでいつも手助けが必要」との回答が該当する。

図Ⅱ-4 分析対象患者の日常生活動作別に見た手助けが必要な人の割合—年齢階級別分布—

65歳以上で、1項目以上、手助けが必要と 答えた人

介護保険の申請をしましたか？



12%の人が、しようと思っ
ていない

介護保険のニーズがあるにもか
かわらず
利用されていない実態

表IV—5 社会的支援源に占める同居家族の割合（複数回答）

単位：%

調査項目	調査年	配偶者	配偶者以外の同居家族	同居家族以外の親族等	近所の人もしくは友達	頼める人等はいない	無回答	合計
身の回りの世話を頼める人はいますか	2021年	54.8	23.9	22.0	22.9	12.3	2.8	100.0
	2016年	56.6	25.9	23.6	20.6	10.0	10.2	100.0
気易く相談に乗ってくれる人がいますか	2021年	50.7	22.7	31.7	63.0	6.1	2.6	100.0
	2016年	53.0	24.9	30.1	64.7	5.0	2.8	100.0
愚痴を聞いたり励ましてくれる人がいますか	2021年	49.7	20.9	29.4	46.1	10.1	3.1	100.0
	2016年	51.9	22.6	27.8	50.0	8.1	3.6	100.0

表Ⅳ—5 社会的支援源に占める同居家族の割合（複数回答）

単位：%

調査項目	調査年	配偶者	配偶者以外の同居家族	同居家族以外の親族等	近所の人もしくは友達	頼める人等はいない	無回答	合計
身の回りの世話を頼める人はいますか	2021年	54.8	23.9	22.0	22.9	12.3	2.8	100.0
	2016年	56.6	25.9	23.6	20.6	10.0	10.2	100.0
気易く相談に乗ってくれる人がいますか	2021年	50.7	22.7	31.7	63.0	6.1	2.6	100.0
	2016年	53.0	24.9	30.1	64.7	5.0	2.8	100.0
愚痴を聞いたり励ましてくれる人がいますか	2021年	49.7	20.9	29.4	46.1	10.1	3.1	100.0
	2016年	51.9	22.6	27.8	50.0	8.1	3.6	100.0

表 51 (1) 実際にどうなるかは別にして、もし寝たきりのような状態になったとき、どのようにしたいと思いますか。

透析のための通院手段を確保し、自宅で生活を続ける	何らかの手段で透析が受けられる福祉施設に入所したい	何らかの手段で透析が受けられる有料老人ホームなどに入所したい	通院の負担を考え、病院に入院したい	透析を中止することを考える	その他	無回答	合計
2,612	1,495	371	1,770	780	116	317	7,461
35.0	20.0	5.0	23.7	10.5	1.6	4.2	100.0

表 51 (2) 【2016年】実際にどうなるかは別にして、もし寝たきりのような状態になったとき、どのようにしたいと思いますか。

通院手段を確保し自宅で生活を続ける	通院の負担を考え病院に入院したい	透析を中止することを考える	その他	無回答	合計
2,774	3,040	917	150	310	7,191
38.6	42.3	12.8	2.1	4.3	100.0

表 51 (1) 実際にならぬかは別にして、もし寝たきりのような状態になったとき、どのようにしたいと思いますか。

透析のための通院手段を確保し、自宅で生活を続ける	何らかの手段で透析が受けられる福祉施設に入所したい	何らかの手段で透析が受けられる有料老人ホームなどに入所したい	通院の負担を考え、病院に入院したい	透析を中止することを考える	その他	無回答	合計
2,612	1,495	371	1,770	780	116	317	7,461
35.0	20.0	5.0	23.7	10.5	1.6	4.2	100.0

表 51 (2) 【2016年】実際にならぬかは別にして、もし寝たきりのような状態になったとき、どのようにしたいと思いますか。

通院手段を確保し自宅で生活を続ける	通院の負担を考え病院に入院したい	透析を中止することを考える	その他	無回答	合計
2,774	3,040	917	150	310	7,191
38.6	42.3	12.8	2.1	4.3	100.0

透析患者さんの声



透析を続けているが
歳をとってきたな

生活も誰かに助けて
もらわないとできなくなっ
てきた

でも、住み慣れたこの家、
この地域で暮らしていきたい

何とか、たすけてもらえませんか

相模原クリニックでの活動

その① 元気な高齢者への対応



その① 元気な高齢者への対応



70歳台、80歳台でも、元気に自力で
通院されている患者さんもおられます
しかし、このような患者さんでも
時として、困った事態になることがあります

こんな事例がありました

85歳 男性 独居

家族:いない

キーパーソン:いない

普段は、高齢にもかかわらず、お元気で
週3回の透析は、仕事の関係で
夜間透析

ある日、めまい、ふらつきが出現
症状はあるものの、自力での来院
数日前から、整形外科にて処方された
薬剤によるものが考えられた

何とか、歩行ができる状態

救急車を要請するレベルではないが
脳神経内科の受診が必要

どうやって行く？

だれが受診につきそうの？

会社の同僚に依頼 → 断られた

受診もできない

明日からの生活は？

明日からの食事は？

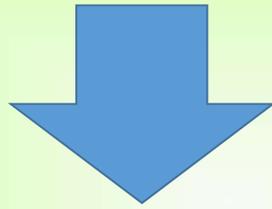
何とかしなければ



そうだ、この人は、要支援 2をもっていたな
地域包括支援センターに相談してみよう



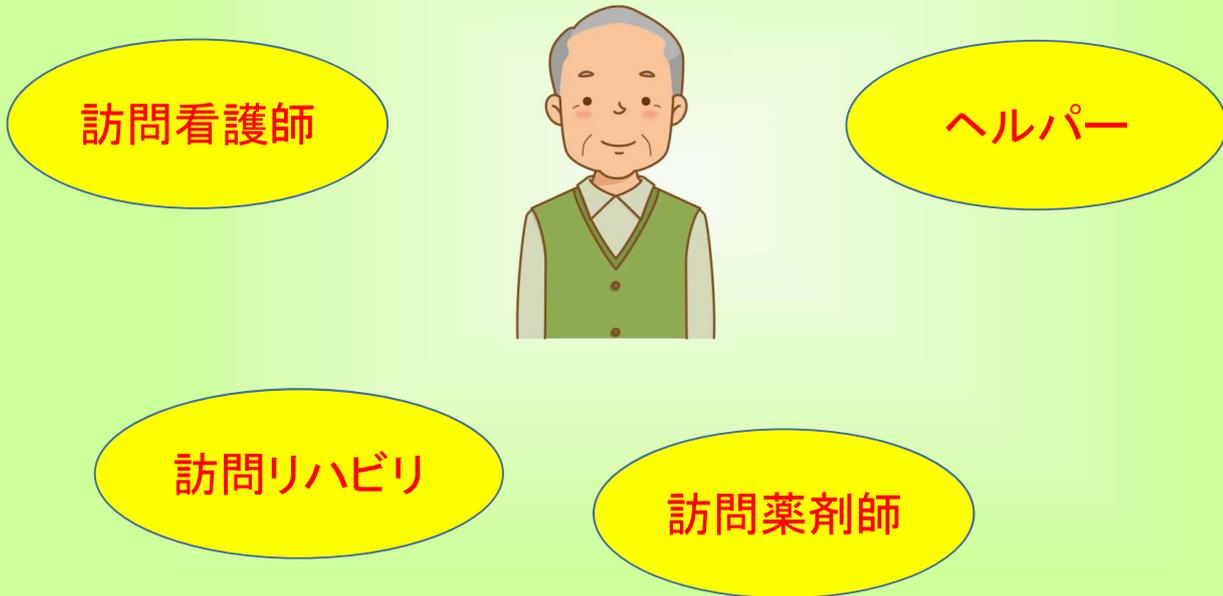
地域包括支援センターに
電話しました



受診の手段、つきそいも
全て 手配してくれました

地域包括支援センターは、
こんなにも、助けてくれるんだ
これからは、地域包括支援センターとの
連携が大切だ





とくに、現在、要介護ではない
透析患者さんへの
対応が必要

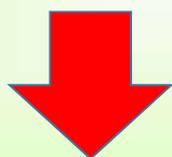
高齢の透析患者さんは
見た目は元気でも、予備能が極めて低い状態
多くがフレイル、あるいは、フレイル予備軍

対応 その1

65歳以上の透析患者さんに
介護申請をしていただく

でも、介護保険申請は大変
市役所行くのもしんどい

地域包括支援センターに依頼し
訪問で、申請の代行をしてもらう



家に居ながら、申請が終了

地域包括支援センターには、
事前に患者情報を送る

患者情報

主治医意見書の担当

透析日

本人と連絡の
取りやすい時間帯

申請理由

494

患者氏名 []

平素より、大変お世話になっております。当院にて慢性腎不全のため、週3回外来維持透析をされている患者様です。治療のため、週3回の外来通院が続きますが、今後の準備として、介護申請を予定しております。そのため、申請のお手伝いをお願いいたします。申請に関し、訪問でお願いできないでしょうか

(患者様)
カネ: []
氏名: []
性別: 女
生年月日: 昭和 27年01月16日
年齢: 72
透析歴: 15年 10ヶ月
HD導入日: 2008/10/27
本人住所: 神奈川県相模原市中央区横山台1-19-8
本人TEL: 042-714-1911

主治医意見書: 相模原クリニック: 〒252-0231相模原市中央区相模原7丁目5番5号
TEL 042-751-1518
FAX 042-751-1547
担当医: 異 洋(たつみ ひろし)

透析日: 月水金午前透析

本人と連絡の取りやすい時間帯: 火木土曜日 時間指定なし

申請理由: 高齢透析患者様でフレイルが高リスクです。フレイル予防のため、リハビリなどを検討しております

□ 相模原クリニック TEL 042-758-6521 FAX 042-754-5807

訪問をする前に、病歴など
必要な情報を知っているので
非常にスムーズに
申請がすすむ

なぜ、市の窓口ではなく 地域包括支援センターに 依頼するのか？

相模原市のホームページ

手続き(窓口申請)

申請は次のお近くの場所で受け付けています。

申請場所

- 緑高齢・障害者相談課
住所:〒252-5177 緑区西橋本5-3-21 緑区合同庁舎3階
電話:042-775-8812
- 城山福祉相談センター
住所:〒252-5192 緑区久保沢1-3-1 城山総合事務所本館1階
電話:042-783-8136
- 津久井高齢・障害者相談課
住所:〒252-5172 緑区中野613-2 津久井保健センター1階
電話:042-780-1408
- 相模湖福祉相談センター
住所:〒252-5162 緑区与瀬896 相模湖総合事務所2階
電話:042-684-3215
- 藤野福祉相談センター
住所:〒252-5152 緑区小淵2000 藤野総合事務所2階
電話:042-687-5511
- 中央高齢・障害者相談課
〒252-5277 中央区富士見6-1-1 ウェルネスさがみはらA館1階
電話:042-769-8349

次のところに申請を代行してもらうこともできます。

▶ [地域包括支援センター\(高齢者の健康、福祉、介護の相談・支援\)](#)

対応 その2

薬の管理を訪問薬剤師に 依頼

以前から、訪問看護師に管理を
依頼することがあったが、
新たに、訪問薬剤師にも参加していただく

内服管理ができない患者宅に
定期的に訪問してもらい
内服状況、残薬チェックをしてもらう

薬剤師も、重要なチームの一員
患者さんの病状を伝える
薬剤師に、患者情報は、
きちんと伝えられていないことが多い

診療情報提供書 2024年09月20日

No.494 相模原クリニック TEL 042-751-1510 FAX 042-751-1547

〇〇薬局 〒252-0231 神奈川県相模原市中央区相模原7-5-5

拝啓 ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。
 このたび、患者 **村山 晴江** 様をご紹介します。
 何卒、ご高診ご加療のほど、よろしくお願い申し上げます。
 敬具 透析室医師： 異 洋 担当：

＜患者＞ 生年月日： 昭和 27年01月16日 性別：女 年齢： 72 歳
 氏名 **村山 晴江** 住所： 神奈川県相模原市中央区相模原1-19-8 TEL：042-714-0111

＜紹介目的＞
 介護保険申請のお手伝いの依頼

＜症状経過及び治療経過等＞
 <<< 「症状経過及び治療経過等」 は別紙参照 >>>

＜現病歴＞
 小学生時より蛋白尿を指摘されており、小学生時に腎機能障害にて一度入院している。その後も検診で蛋白尿を指摘されている。25歳時（1977年）血圧も高いため、東京医科大学にて腎生検を実施されている（詳細不明）。血圧は3年前の内服で安定し、内服は中止となっている。40歳（1982年）より、再び血圧が上昇したため小児内科にて内服管理されていた。2004年血圧不良のため、フルイトラン、ロングスル方されたところ、両下肢に高血圧性浮腫、かつ22.2mg/dlと上昇、血糖値12mg/dlと高いため北里大学病院内分泌科へ入院。入院時よりインスリンを導入されている。腎不全の原因は小学生時より蛋白尿を認めていることから慢性腎炎によるものと考えられた。腎機能はC_{cr}2mg/dl台にて経過していたが2008年より悪化、2008年10月尿毒症症状出現のため2008年10月27日透析導入となる。

＜既往歴＞
 原疾患： 20歳 虫歯炎、50歳 梅毒、2008年12月 GAVEによる高度貧血、APC実施（相模野病院）、2015年09月 GAVEによる貧血、APC実施（相模野病院）、2018年12月 GAVEによる貧血、APC実施（相模野病院）、2022年02月 右半規管瘻閉鎖術後：北里大学病院、2022年03月 左半規管瘻閉鎖術後：北里大学病院、2022年11月 GAVEによる貧血、APC実施（相模野病院）、2023年09月 GAVEによる貧血、APC実施（相模野病院）、2023年09月 閉塞性動脈硬化症、右遠大動脈、経導管介入術EVT、閉塞性動脈硬化症、2023年09月 閉塞性動脈硬化症、APC実施（相模野病院）、2024年05月 大動脈弁狭窄症：経過観察：北里大学病院、2024年06月 GAVEによる貧血、経導管介入術、右室2.3指：ばね用平角（膿瘍切開）：北里大学病院整形外科

＜検査値＞
 #1 慢性腎不全（血液透析中）
 #2 糖尿病
 #3 高血圧
 #4 一過性甲状腺機能亢進症
 #5 甲状腺腫瘍
 #6 胆のうポリープ
 #7 大動脈弁狭窄症
 #8

〔血液型〕O型(+) [トランスフェリン] 45.30Kg [心臓比]0(R6.09.13) [治療法]OHDF
 透析回数3回/W
 透析時間4時間0分
 血流量200mL/min
 9' (7'45"-)
 ABH-22FA
 透析液
 リンパック透析剤TA1 2袋
 抗凝固剤
 AA リン250単位/mL
 方法[初回]1250U持続700U/h
 ショット部位[右AVF]
 [穿刺針]
 A側短針 18G
 V側短針 18G

＜検査値＞
 エネルギー：1400 kcal (30 kcal/kg)
 蛋白質：50 g 食塩：6 g
 身長：148 cm
 透析導入日：2008/10/27
 透析歴：15年 10ヶ月

検査名 判定 日付 (HDB) (SHDB)
 HBs-Ag判定 (-) R8.04.01 (HDB) (SHDB)
 HBs-Ab判定 (-) R8.04.01 (HDB) (SHDB)
 HBs-E判定 (-) R8.05.06 (HDB) (SHDB)
 HCV-Ab判定 (-) R8.05.06 (HDB) (SHDB)
 TPHA (-) R8.05.06 (HDB) (SHDB)
 HBsE (-) R8.05.06 (HDB) (SHDB)

現病歴

病名

既往歴

内服状況
 困っていることを
 記載

755

＜症状経過及び 治療経過等＞

755

患者氏名 **村山 晴江**

当院にて慢性腎不全のため、外来維持透析をされている 小形 清輝様です。
 現在、投薬に関しては、自己管理ができず、当院看護師がピルカレンダーを作成し、管理している状況です。
 そのため、貴薬局にて、訪問にて管理していただければ幸いです。
 よろしく、お願いいたします。

病歴、既往歴、患者情報など、ファックスいたします

患者情報
 カナ **村山 晴江**
 氏名 **村山 晴江**
 性別：男
 生年月日：昭和 13年03月30日
 年齢： 80
 透析歴： 3年 1ヶ月
 HD導入日：2021/11/27
 血液型：O型(+)
 本人住所：神奈川県相模原市中央区上矢部5-27-13サンリスタ瀬野辺102
 本人TEL：090-1547-3037

□ 相模原クリニック TEL 042-758-6521 FAX 042-754-5807

対応 その3

地域連絡会を発足

地域で患者をささえる
地域包括支援センター
訪問看護師
訪問薬剤師
ケアマネジャー
訪問リハビリ

顔の見える関係であることが大切
みんなで、話し合いを問題を
解決していく会合

とある日のケアマネジャーとの会話

医師

ケアマネジャー

Aさん、通院にヘルパーの介助が必要になったんだけど

Aさん、要支援2だから、区変かけなきゃね

そうですね、では、区変の手配しますね

乗り降り介助だから、身体介護 30分でいいよね

はい、それで、手配します

では、区変の主治医意見書、お願いしますね

了解、書類、すぐ書くから、手配してね

はい、

今後の問題点

- 1 相模原市が、すぐに利用しない
お守り申請の抑制政策を開始している
- 2 介護保険は、介護度判定前でも
利用は開始できる。しかし、
介護度の判定はきびしくなっ
ている。全額自己負担のリスクが
ある。→お守り申請が必要
- 3 在宅医との連携強化
在宅医も含めた地域連携

4 訪問薬剤師に管理を依頼すると 料金が発生してしまう



訪問を中止する例も発生している

2025年問題: 団塊の世代が後期高齢者に!

「2025年問題」とは、2025年に日本の人口の5人に1人が75歳以上となり、後期高齢者が大幅に増えることで、社会に大きな影響を及ぼす問題

国が打ち出した3つの2025年問題対策

1. 公費負担の公平化のための見直し

2. 医療・介護人材の確保

3. 地域包括ケアシステムの構築

要介護状態となっても、病院や介護施設などではなく、**住み慣れた地域で暮らしたい**と考える人も多い。そのような人を支えるため、**医療・介護・予防・生活支援・住まいが一体となった「地域包括ケアシステム」**の構築

2025年問題: 団塊の世代が後期高齢者に！

「2025年問題」とは、2025年に日本の人口の5人に1人が75歳以上となり、後期高齢者が大幅に増えることで、社会に大きな影響を及ぼす問題

国が打ち出した3つの2025年問題対策

1. 公費負担の公平化のための見直し

2. 医療・介護人材の確保

3. 地域包括ケアシステムの構築

要介護状態となっても、病院や介護施設などではなく、**住み慣れた地域で暮らしたい**と考える人も多い。そのような人を支えるため、**医療・介護・予防・生活支援・住まいが一体となった「地域包括ケアシステム」**の構築



高齡者

幸齡者

『自分らしい生活と 透析治療の両立は？』

居宅介護支援事業所 スローライフ
主任介護支援専門員 赤井田 朋子

【対象者】

- Aさん 男性 要介護1 現在80歳
(介入当時73歳)

【病歴】

- 糖尿病 60歳台
- 糖尿病性腎症 73歳～透析開始
- 認知症
(精神科医師からは認知症というよりは性格的な症状と言われている)

【受診状況】

- 人工透析 週3回
- 精神科 通院中
- 整形外科 通院中

【食事制限】

- 水分500m l /1日
- 塩分6 g /1日

【処方薬】

【透析】

- ・ トラゼンタ
- ・ ピタバスチンCa 1mg
- ・ オルメサンタ
- ・ アルファロールカプセ 0.25
- ・ ランソプラゾールOD15
- ・ センノシド 12m g
- ・ ビートルチュアブル
- ・ ツムラ麻子仁丸
- ・ ポラブレジレグ

【精神科】

- ・ ゾテピン 25m g
- ・ エキゾラム 1
- ・ タスモン 1m g

【生活歴・家族】

- 関西地方出身。25歳で結婚
妻との間に二人の娘に恵まれる。 現在長女とは疎遠
4度、事業を手掛けるが失敗
今は服薬等で落ち着いているが、以前からふらりと
出かけるなど突発的な行動や混乱することがある
時々イライラ感があり、妻との衝突も多い
- 年金収入 180万円/年間 貯蓄なし
- 都営住宅在住 家賃 25,000円/月
- 家族：妻（同居/キーパーソン）長女、次女

【性格】

- 努力家・勉強家
- 自分の力で行動しようという強い意志がある
- 自宅では読書、料理をすることが多い



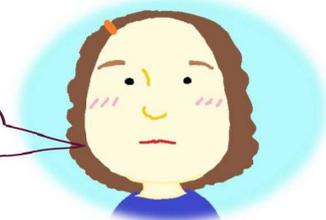
【支援経過】

- X年 地域包括支援センターより依頼あり、担当。
当時73歳。透析開始時から支援
退院した当初の介護認定は「要介護2」
- 介護サービスは、特殊寝台及び特殊寝台付属品の貸
与、通所サービス週1回から開始
- 透析クリニック、精神科クリニックに受診中であった

【夫妻の関係性】

- 初回の印象
透析治療のことを本人自身よく理解している。妻は本人の
身体をとてもいたわりながら介護しているという印象
- 訪問を重ねるうちに、夫妻で些細なことで言い争う様子が見られるようになった
妻が意見を主張するも、本人は頑固に妻の言うことに応じないというパターンが多い

夫婦喧嘩は犬も食わない
っていうけどな



【X+1年 支援経過】

- X+1年 介護認定更新にて要介護2→要介護1に
- ご本人より 特殊寝台でなくとも良いと希望され返却。サービスは通所の他に、訪問介護サービスが週1回開始となる
- 12月 妻より 本人のイライラ感が募り、妻への暴言、また認知機能面の混乱が増えたと報告あり
- 精神科クリニックの医師に相談。本人からの希望もあり、服薬調整のために短期間入院し、翌年1月はじめに退院。精神状態安定

【X+2年 2月以降】

- 新型コロナウイルス感染症流行

本人、自身が透析をしていることもあり、ことのほか感染に対し不安、恐怖あり

通所サービス、訪問介護、ケアマネの訪問等拒否

→2月～8月までサービスなし

8月～訪問介護サービスのみ断続的に継続、コロナ感染者が多くなるとサービスをキャンセルする等サービス提供は一定ではない

【それぞれのこころの声】



本人

感染したら大変なんだ！なるべく人には会わないようにしている！



妻

いつもイライラして・・・私も落ち着かないわ

孤立している状況だわ・・・何か起こらなければいいが・・・



ケアマネ

【X+2年 8月～12月】

- 介護サービス(本人)
訪問介護 週1回
- 夫婦喧嘩はさらに頻回
- 次女に仲裁に入ってもらおう。妻が次女宅に泊まる
- 妻のショートステイ利用や入院

二人が離れて気持ちを落ち着かせる工夫をしながらやり過ごす

【X+2年 暮れ】

- 妻との夫婦喧嘩・・・激しく警察を呼ぶ騒ぎに

あくる日、透析帰宅後、妻に『買い物に行く』と言い残し外出。その際、貯蓄を全て持ち出す

→ ある地方の島にいる事が判明・・・

島のクリニックから本人が通う透析クリニックへ連絡あり

→ 主治医 本人に帰宅を促す

翌日、島からさらに遠方へ移動。そこで金銭が底をつき、自ら透析クリニックへ

【その時のケアマネの動き】

- 警察、包括支援センター、透析クリニック、精神科クリニック等に連絡調整
- 毎日、電話で妻、本人の話を傾聴 ☎

すごい行動力・・・
なかなかできないよね・・・



【x+4年 暮れ】

ささいな夫婦喧嘩はあったけれど、
しばらく落ち着いていると思っていたけれど・・・
妻と喧嘩後、電動車椅子で家出！

- 透析日に帰宅せず透析クリニックの医師、
看護師が本人を電話で説得。
- その後妻は体調を崩し入院。



2回目は
電動車椅子
か・・・

【現在】

- やはり夫婦喧嘩は多いがなんとか生活されている
- 夫も妻も徐々にお互いをあきらめつつ、自分の心を見つめ抑えながらやり過ごすことも増えている



【担当ケアマネの気持ち・・・】

- なんとか夫妻であり続けてほしいと考えている
- いつからか夫妻の居間に飾られた色鉛筆画には穏やかに微笑んでいる夫妻の姿がある



【事例を振り返って】

- 本人、妻の体調に併せてサービスの調整必要
- 「自分でやっていく」という意思を強く持っているご夫婦
日々話を傾聴しながら、夫婦の強みを活かして支援にあたりたい
- 各クリニックとの連携は欠かせない

ご清聴ありがとうございました



【課題】 グループで意見交換をしましょう

支援者である私たちが『**その人らしい生活**』をあきらめたり、制限したりしていませんか？

「**透析だから**、好きな時に旅に出ることはできない」って決めつけていませんか？

「**透析だから**、好きなものを食べられないのは仕方ないでしょう」って思っていないですか？ などなど…

『**その人らしい生活**』をあきらめないためにどう支援したらよいか、医療と介護、二つの視点で考えましょう！